

令和5年第13回教育委員会会議録

1 日時

令和5年8月16日（水）13時15分

2 場所

教育委員会会議室

3 出席者

教育長：石橋正信

教育委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、木下理事

中尾総務部長、峯川職員部長、吉安教育環境部長、浦塚教育支援部長、齊藤指導部長、松崎総合図書館長

中野総務課長、平川教育政策課長、重村服務指導課長、西尾施設課長、石田教育支援課長、井上小学校教育課長、大坪高校教育課長、中野教育相談課長、竹原特別支援学校開校準備等担当課長、松本発達教育センター所長

重松教育支援課教育支援係長、恵良小学校教育課小学校教育第1係長、寺澤小学校教育課小学校教育第2係長、岡田小学校教育課主任指導主事、小野小学校教育課主任指導主事、瀧澤小学校教育課主任指導主事、古井小学校教育課主任指導主事、黒松中学校教育課主任指導主事、古閑中学校教育課主任指導主事、西村人材育成課主任指導主事、久永人材育成課主任指導主事、田中人材育成課主任指導主事

4 会議事項

(1) 付議事項

付議案第48号 教科用図書について（継続審議）

付議案第58号 令和4年度教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

付議案第59号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第60号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第61号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第62号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

付議案第63号 教職員の人事について

付議案第64号 教職員の人事について

(2) 臨時代理報告事項

なし

(3) 協議・報告事項

協議・報告ア 公益財団法人福岡市教育振興会について

協議・報告イ 東エリア特別支援学校高等部（新設）の学校概要について

協議・報告ウ 東エリア特別支援学校高等部新築工事請負契約の締結について

協議・報告エ アイランドシティ地区小学校プール棟新築その他工事請負契約の締結について

協議・報告オ 専門学科を有する市立高校のあり方検討について

5 開会

教育長開会を宣告 13時15分

付議案第59号から第62号までは議会の議決を経るべき議案に関する案件のため、付議案第63号及び第64号は人事に関する案件のため、協議・報告イからエまでは議会に報告する案件のため、協議・報告オは意思形成過程の案件のため、議決により非公開とされた。

6 付議事項

▼付議案第48号 教科用図書について

井上課長、各教科担当者より説明

《継続審議》

[質疑等]

(徳成委員)

- 何点か気づいたことがあるが、まず総論的に意見を述べると、現行学習指導要領下で2回目の教科書改訂になるが、学習指導要領の中で重視されている主体的・対話的で深い学びや探求学習を意識した内容というものは、現行の教科書にも反映されているが、今回の改訂でどの教科書においても、より教科の学びにおいてブラッシュアップされていることに関心を持って読ませていただいた。様々な学力実態の子どもたちが学びやすいように工夫を凝らして、学習の進め方をステップ的に分けて説明したページを設けている教科書も各教科で多く見られた。写真・イラストがより鮮明になっているが、子どもの理解や興味関心を引く上で重要なことであり、さらに前回よりも良いものになったと感じている。GIGAスクール構想の進展による一人一台端末環境を前提とした学習活動であるとか、国連の持続可能な開発目標SDGs関連の教材等が今回特に目を引いた。

研究会及び調査研究委員会で調査検討された評価資料は、各教科書の特徴や課題等を精査され、適切な絶対評価をされていたということに感謝申し上げたい。学校の授業を最近見せていただくと、かつての一斉指導といった単線系の授業はほぼ見られなくなりつつあり、子ども一人ひとりが自ら課題をもって主体的に学ぶ複線系の授業に変革していこうという大きな過渡期を迎えているという感想をもった。だからこそ、一人一台端末、クラウドツールを活用した複線系の授業、その中でも学習教材として最も中心となるのが教科書であるわけで、これからさらに個別最適で主体的な問題解決学習に効果的な教科書が求められてくるのだと感じている。お尋ねだが、今回は、前回以上に各教科書に多くの二次元コードが配置されているが、その内容や数は検定対象になっていないのではないか。これまで副教材として準備しなければならなかったものが、すぐにタブレットや電子黒板で共有できるということは、先生方の負担軽減にもなって画期的なことではあるが、多ければ良いということでもないと考えている。発展的な学びにも使えるものではあるが、授業で子どもたちが集中して取り組むことができる量と内容については、検討する必要があるのではないか。二次元コードについて、何か教育委員会として意見があればお聞かせいただきたい。

(寺澤係長)

- 二次元コードの活用について、二次元コードから活用できるコンテンツには、動画や資料、子どもが直接書き込むようなワークシート等があった。そのようなコンテンツを全て利用するというのではなく、学習のねらいに沿って、教師が選択し、活用することが想定されている。児童が一人一台端末を使って読み込んだり、教師が教師端末で読み込んで一斉に提示したりする方法が考えられる。

(町委員)

- 教科書は大切なもので、教育にとって基本中の基本である。しかし、文部科学省の検定を全部通っているわけであるから、どの教科書を選定するかということは、それぞれの地域の特色を生かしたようなところを重視すべきと私は考えている。先般来、研究会、調査研究委員会で重視すべきところを教えていただいたことがある。その中で、第2次福岡市教育振興基本計画に当たるところの2番のウ、人権のところのエ、それから、先ほど徳成委員がおっしゃったとおり、一番新しい特徴としては、4番のウのところの一人一台端末である。これをどう使うか、使いこなすかということが大切なところであると思う。その辺りの部分を、私は今回自分なりに見させていただいた。そういったところが特徴として出ているものを推薦していきたいと考えている。

(井上課長)

- どの教科書も検定を通過しているのだから、全て素晴らしいものであると思っているが、ご指摘いただいたとおり、福岡らしさというところで、どのように選定

していくのかについて重点を置いた。福岡スタンダードにある「自学・とも学」、これは、主体的・対話的で深い学びという学習指導要領の考え方にも沿っているし、人権感覚に関する項目、今回の採択から加わったデジタルコンテンツに関する項目を重点としているので、その辺りを中心に、これまでの研究会、調査研究委員会でも重点的に審議してきたところである。

(石橋教育長)

- 町委員、徳成委員がおっしゃったとおり、環境の変化がある。物的にはツールとしての一人一台端末が入って、学び的には主体的・対話的で深い学びがあつて、そういったものは当然見た上で、今回調査研究委員会で検討しているところである。

(井上課長)

- そのとおりである。

(原委員)

- 全体的なところでいうと、共通の観点、福岡スタンダード、自学・とも学といったところを強調した教科書が多くあつて、例えば算数において、問題設定においても、お互いの意見などを比較検討したり、対話の中で説明したりといったものがあり、子どもたちに考え方、学び方を提示されているものが多いと思った。その中で、説明の仕方、きちんと最初から最後まで問題などを丁寧に説明したり、情報をたくさん示したりするものと、当初のところである程度、説明のところなどで情報を絞ったりしてメリハリをつけているようなものもあつて、その辺りの情報量の出し方、教科書としてどのように出していくのが良いかというところは疑問に思っているところである。また、二次元コードについて、算数に限ってではないが、特徴的なところで、ドリル的な、補足的な内容のものも多くあつて、先生方もどのように使っていられるのかとあって、授業中に全部を扱うのはなかなか難しいと思うが、今後、仕様の目的というか、その量をどのように使いこなしていくのかというところが気になっている。

(井上課長)

- 情報の出し方について、全般的なところでお答えすると、例えば、学習のステップを示しながら全部示してしまう方が良いのか、子どもたちに考えさせる部分を残すようなかたちが良いのかということについては、これまでの研究会、調査研究委員会の中で教科ごとに十分審議されている。教科ごとに特性があるので違う部分もあるが、例えば算数であれば、一つずつステップをきめ細かに示して、そのとおりに進めば問題解決ができるというのが良いのか、若しくは、子どもたちに問題を投げかけるようにして、自力で解いていくというかたちが良いのかということについて十分に審議してきたところである。

(徳成委員)

- 個別の教科について、国語に関していうと、A社、B社、C社あって、どれも目次と学び方の見通しといったところが整理されていてとても良い作りになっている。特にA者は、巻頭の学び方の解説といったところや、紙質や大きさを変えて見返しができるようにしているところが高く評価できる。教材文としてとても印象に残ったのが、A社の6年生で、「考えるとは」という教材で、子どもたちに思考、表現させる上で重要な教材だと感じた。B社についても、「うれしきってなあに」という哲学対話をしようというものがあり、海外の教育では既にこども哲学はかなり先行しており、日本は遅れていると言われていて、これを取り上げるのは大切だと考える。C社についても、SDGsを社会科ではなく国語の教材文で取り上げているところが良い。

また、書写については3者あるが、かなり違いがあると感じている。1ページ当たりの情報量が適度かどうか、子どもたちが集中して書き方に専念できるようなつくりになっているかどうかみていくと違いがある感じた。1年生、入門期の書写であるが、B社は書写体操、整理体操といった、子どもが個別にみてもできそうなことを二次元コードで載せてあるのはおもしろいし、他の教科書も写真とイラストが鮮明で見やすかった。全体的に1ページの情報量を考慮したほうが良いのではということを感じた。

(井上課長)

- 子どもたちが学ぶ上で、適切な情報量というのは大切であると思う。子どもたちが実際にその教科書をみながら、どのような学びをしていくのか、書写においては正しく文字を書くということがあるが、それがどのように身に付くのかといった点で、適切な情報量、文量は重要なことであると思っている。

(石橋教育長)

- 教科書については、それぞれに良いところがあるが、その上で使い方に委ねられているところがかなりあって、こちらに投げかけられている。

(原委員)

- 国語について、主体的・対話的な学びとして、思考の過程を整理したり、意見として反映したりするということで、ある教科書は、論理の構造を図式化して説明している説明文、論理文が多くて分かりやすく、子どもたちにとって有益であるという感想をもった。また、書写について、授業内容を実生活に反映するという点で、情報の伝え方、日常的に使えるようなことの記載があつて、この観点は使えると思った。

(町委員)

- 社会について、福岡スタンダードに出てくる「自学・とも学」と同時に、子どもに興味を引くという意味では、郷土である福岡県、福岡市が多く載っているところがあったので、そういったところを重視してはどうかという感じがした。

(徳成委員)

- 地元福岡を題材として取り上げた教科書が2社あって、1社は福岡市を全体的に取り上げており、もう1社は福岡県を俯瞰的にみるものである。それぞれが興味深くて、子どもたちも郷土の誇りというか、そういった目で関心を持って教科書を読み込むのではないかという感想をもった。それぞれ先生方がどのように取り扱うのかということであるが、いつも住んでいる、見ている福岡市を取り上げるのか、県全体を俯瞰することが大切なのかといった辺りで意見が分かれてくるのであろう。また、A社の6年生の歴史編、近現代史について、これまで白黒であった写真を、AI技術によりカラーにしているのは、子どもたちにとっては思考や理解をしやすいのではないか。もともと白黒であるものをAI技術で変えるのはどうかとも思ったが、教科書を読み進めていくと、巻末ページに説明が詳細に記載されており、共感できるものがあつた。全部で54枚の写真をカラー化しているとのことで、弱視の子どもへの配慮にもなっており良いのではないか。

生活科について、保幼小接続の重要性が求められているが、年長から1年生へのジョイントカリキュラムの中核が生活科である。入学したての子どもたちが馴染みやすく、学校生活への興味関心が湧くようなものになっているか、興味深く読ませていただいた。どの教科書も写真やイラストを凝らして良いつくりになっているという感想を得た。生活科が導入された頃と比較すると社会認識、自然認識という観点からもすばらしい内容になっているし、当然ながら理科や社会へのつながりも考慮されている。1点気になったのは、1ページの情報量が多すぎるものと適切なものがはっきりしていた。子どもたちが教科書の中に入り込んでいくに当たっては、整理された、情報量が適度なことが大切ではないか。

これについて、生活科の担当主事から何かあればお答えいただきたい。

(古井主事)

- 調査研究委員会においても、情報量が多いものが教科書によってはあつたので、適切な量の写真と文章ということは話題に挙がつた。

(町委員)

- 地図については、我々の頃とはかなり違っていて、スマートフォンで出るようなきれいなものが教科書になっている。地図の場合は国境などがいつ変わるか分からないので難しいところではあるが、記号などが小学生にとって分かりやすいものが使つてある教科書を選びたいと思った。

(西村委員)

- 算数について、数学的見方、考え方を働かせながら問題解決をしていくということを、どの教科書も力を入れていると感じた。解説が詳しくすぎたり、自分たちで考えるということ、問題を投げかけることのバランスが気になる部分もあつたが、どの教科書もしっかり考えられて進められていると感じた。また、子どもた

ちがそこにどう興味を持つのか、見た目からも入っていくと思うので、興味をもてるような教科書のスタイルについて、それぞれ教科書によって違うところがあったので、そこも惹かれた。また、理科、生活科について、違いとつながりのバランスがとれていて良いと思った。はっきり別れるのではなく、理科から生活科、生活科から理科、社会といったつながりが見ることができるようになっていた。また、ICTコンテンツの利用について、理科は量が多いと思ったが、見通しをもって観察や実験を行っていくという、その「見通し」というものが、理科の中では大事なことだと思うので、そこをもう少し子どもたちが考えることができるような表現を教科書の中から見つけているところである。

(徳成委員)

- 算数と理科について尋ねる。算数は、小学5年生への指導がとても難しい内容だったと記憶している。特に分数の乗除、単位量あたりは、子どもたちの理解が難しいが、ここは学年で移動しているのか。また、プログラミングについて、算数、理科で入ってきていると思うが、そのことについてそれぞれ意見があればお聞きしたい。

(瀧澤主事)

- 算数について、分数の掛け算、割り算は、当初から6年生に配置されていて、5年生では小数の掛け算、割り算を扱っていく。単位量あたりは一時期、「速さ」だけが6年生に移動していたが、現在は5年生の単位量あたりに「混み具合」と「速さ」が配置されている。また、プログラミングについては、算数科においても行っていく。指導要領等では、図形の角の部分でプログラミング学習を行っていくが、それだけではなく、PPDACサイクル、problem (問題)、plan (計画)、data (データ収集)、analysis (分析)、conclusion (結論) というかたちで、プログラミング的に思考していくように単元を設定している。5年生だけでなく各学年に配置されている。

(田中主事)

- 理科についても、プログラミング教育としては、6年生の電気の利用に用いられている。センサーを用いて暗くなったら明かりがつく、人が近づいたら明かりがつくといったプログラムを作成して体験する活動が設定されている。

(町委員)

- 音楽について、調査研究委員会と学校長の意見が、点数化すると真逆になっていて、これは音楽科だけで、他の教科はだいたい同じになっている。どのように選べばよいか悩んでいるところである。IT化しているのでQRコードが付いているが、全部に付いていた方が良いのか、必要なものにだけ付いていた方が良いのか、その辺りの見解を尋ねる。

(恵良係長)

- 音楽科については、学校長意見書で評価している、情景等が優れている点は、研究会、調査研究委員会でもすばらしいと考えている。ただし、教科書の情報量について、多いのではないかという意見もあったが、掲載されている情報については、学校で授業を行う際に、有効に働く手立てになるのではないかということで、研究会及び調査研究委員会においては良さとして捉えていることから、逆転現象が生じていると考えられる。また、二次元コードについては、使用するかしないかは教師、子どもが判断していくことになるので、各場面で使えるということで、研究会、調査研究委員会では多くあった方が授業を行いやすいという意見が出ている。

(徳成委員)

- 音楽について、二次元コードが片方の教科書にはかなり入っており、もう片方はそれほどでもないという違いはあるが、教科書のつくりとしては、両者とも甲乙つけ難いととても良いできになっている。あとは何が違っているのかということだが、やはり子どもたちにとって見やすいものであるか、イメージや思考をしやすいものであるか、歌いたくなるものであるか、演奏しやすいものであるかといったことも大切ではないだろうか。音楽は授業時間数的にはそれほど多くない中で、一単位時間でできることは限られてくる。どうすれば子どもたちが興味をもって集中的に取り組むことができるか、そこに合う教科書であるかどうかという評価が分かれたところである。どちらの教科書も写真やイラストも効果的な使い方をしている。また、1年生の教科書では鍵盤ハーモニカのページで図の大きさや指使いといったところが使いやすいかどうか、また、3年生のリコーダーのページも違いが大きい。どちらが丁寧かということで見させていただいた。両者ともすばらしいが、観点別にみていくとそれぞれ違いがあると感じた。

(武部委員)

- 他の教科もそうだが、音楽ほど一度聴いたらイメージが付いてしまうものはなく、そこから発想が抜け出せないという苦しさがあるので、そういった意味で、二次元コードで聴く音楽がどれくらい質の良いものであるか、子どもたちのイメージを狭めないものであるかというのは気になる場所である。学ばせるのか、感じさせるのかというところが教科書によって違うということを感じた。

(原委員)

- 図画工作について、視点として、地域社会との関わりの中で造形的な考え方を働かせることができる内容というのは分かりやすいと思った。また、子ども作品が多く掲載されていて、子どもが共感できるような内容になっていると思った。ただしその分、以前はプロの芸術家の古典的な作品などが載っていたと思うが、そういったページは減少しているように感じたので、二次元コードなどで、発展

的な、好きな子どもがイメージーションできるような内容になっているものが良いと思う。

(町委員)

- 保健について、どの教科書も良くできていると思うが、一番のポイントは、子どもが読んだときに役に立つようなことが多く載っているものが良いと思う。我々が学生の頃は運動生理学など大学体育の専門書を制作していた教科書発行者が、今は小学校の教科書を制作するようになったことに驚いているところである。

(西村委員)

- 家庭科について、両者とも安全面に関して以前の教科書より詳しく記載していただいていると感じた。家庭科を学ぶ上で安全ということ、生活の中で安全ということが良くマッチして表現されていると感じた。また、自分の成長の自覚、実践する喜びを味わうというところにおいて、表現されているところがあつたので感心した。昔の家庭科の教科書と比べると、発展的な部分があると感じた。

(原委員)

- 家庭科について、SDGsという上位概念の下で地域社会、家庭を見つめ直すといった掲載があつて、私は評価した。

(徳成委員)

- 外国語について、外国語活動は言語四技能のうちの「聞く」、「話す」という二つの技能領域を中心に進められている。単語数がかなり多くなっているが、基本的には単語を覚えることが前提ではないと捉えてよいか。そうすると、教科書がいくつかある中で、単語に日本語が表記してあるものとならないもので分かれているが、教科書のつくりとして、子どもたちが使いやすいかどうかという点について意見があればお尋ねしたい。

(古閑主事)

- どの教科書においても単語に多く触れさせるようになっている。小学校は英語に慣れ親しむ段階になるので、依然と比べると掲載は多くなっていると思うが、その中で日本語を適切に使っていけば、子どもたちの中に理解を深めることができると思うので、それは各教科書で工夫して日本語を使ったり、絵や場面で提示したりといったところがみられるという意見が出た。

(西村委員)

- 外国語について、私も単語の数が多いいとは思いますが、多ければ多い方が良いと思っているので、全てを理解していなければならないということではなく、触れることが大事だという意味では良いと思った。また、今回の教科書はどれも様々な場面でいろいろな配慮がされていると感じたが、特に外国語については配慮が多くみられるので、SDGsなども含めて良い方向に向かっていると感じた。ま

た、世界地図を使ったコンテンツで外国語を使ったものをみたので、外国語から世界をみるという点においては、昔と比べると発展していると感じた。

(町委員)

- 道徳について、どの教科書を選ぶか悩んでいる種目の一つだが、学校長の意見などをみると、内容、配慮、仕様それぞれ特徴があって甲乙つけ難いところがある。

(武部委員)

- 全体的に、自分事としてどう考えていきたいと思いますという事例、内容になっていて、分かりやすく良いと思っているが、高学年になると、自分事として考えるところからそろそろ脱出しなければならない、概念的に考えなければならなくなって、具体的な分かりやすさで留まっていると、そこから先が困るのではないかと思う。教科書をみていてずっと分かりやすさが続いているということが気になった。

(井上課長)

- 中学年から高学年になると、具体的な思考から抽象的な思考になってくる。道徳の中でも特に低、中学年は、自分にごく身近なところから考えるというところからスタートするが、高学年になるともっと広いところからの題材もあるので、そのように系統立ててはあと思う。

(徳成委員)

- 道徳について、経験の想起、内面化など自分事としてどう考えるか、とりわけいじめ問題についてどう取り扱うかについて教科書で差が出ていると感じた。

▼付議案第58号 令和4年度教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書について

平川課長より説明

《原案どおり可決》

[質疑等]

(町委員)

- 学識経験者による意見をみると、厳しめなことが書かれているが、真摯に受け止めるべきものである。例えば総合教育会議の開催に関すること、ウェルビーイングの中身を多くすること、特に一番気になったのは、保護者アンケートについてウェブ等を活用すれば数を取れるのではないかといったことについてのご意見、また、「第2次福岡市教育振興基本計画も残すところ1年余」で、事ここに至っては達成が困難な施策もあるので、ここは落ち着きどころをどうするかよく考えなさいといったことを含めて、今回は割と辛らつに書かれているというのが正直な感想である。令和3年度までの聞き取りは、クエスチョン、アンサーという

かたちで、こちらからこういうことでやりましたということに対して回答をいただいたという記載にしているが、今回は学識経験者が最初から書いているのはなぜか。

(平川課長)

- 資料82ページから85ページまでが令和4年度の点検・評価に対するご意見、86ページ以降が令和3年度の点検・評価でいただいたご意見に対する教育委員会としての対応、施策を書いている。昨年度の点検・評価では86ページ以降の令和3年度の意見のみを載せていた。いただいたご意見への回答を翌年度に載せている。よって、今年度いただいた令和4年度の点検・評価に対するご意見への回答を来年度の点検・評価で記載する。厳しいご意見もいただいているので、そこはしっかり受け止めたい。

(町委員)

- 資料84ページの「英検3級相当以上の割合が大幅に低下したこと」などについては、なるほどと思うことを書かれているので、我々教育委員としても心して読まなければならないと思う。特に教育委員としては、総合教育会議について、1回ではなく2回にした方が良いのではないかということも書いてあるので、市民に分かりやすいものになるようにしていきたい。

▼付議案第59号 議会の議決を経るべき議案に関することについて
中野課長より説明
《原案どおり可決》

▼付議案第60号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

▼付議案第61号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

▼付議案第62号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

中野総務課長、平川課長、西尾課長より説明

《いずれも原案どおり可決》

▼付議案第63号 教職員の人事について

重村課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第64号 教職員の人事について

重村課長より説明

《原案どおり可決》

7 臨時代理報告事項

なし

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 公益財団法人福岡市教育振興会について

石田課長より説明

[質疑等]

(町委員)

- 別紙資料1ページの表の4年生について、公立19人、私立63人とあるが、「私立」とはどういったものか。

(石田課長)

- 4年生は高等専門学校、専修学校、通信制の高校で、私立の場合は専修学校である。

(徳成委員)

- 県の奨学金貸与があつて、次が市という順番で、県も似たような生徒数の減少、貸与数の減少があつて、大きな変化ないということによいか。

(石田課長)

- 申請状況について、市立の中学校の生徒の申請で申し上げると、令和3年度が1,030人、令和4年度が1,107人、令和5年度が1,046人で、おおむね千人前後で推移している。大きく変動はないが、対前年度で微減しつつあつて、市と同じような状況にある。

(徳成委員)

- 郡基金について、もともと減り続けていくものだと思うが、郡基金以外からの寄付があつて加えることはあるか。

(重松係長)

- 令和4年度は60万円余、教育振興会に対する直接の寄付があつている。

(徳成委員)

- それは1件か。

(重松係長)

- 件数でいうと、令和4年度は7件あつている。金額が69万7千円である。

(町委員)

- 今回は貸与人数も減っているが貸与残高も減っているということで、数値的にはおかしくはないが、返還金の徴収の仕方などについて尋ねる方もいると思うので、その辺りは答えられるようにしていた方が良いと思う。支払督促などについて、どのようにされているのかといったことを聞かれる方もいると思う。

(石田課長)

- 近年は特に、滞納が始まった直後、委託先のコールセンターからの電話、ハガキの送付など早期の呼びかけを強化している。

(原委員)

- 貸与人数はなぜ減っているのか。

(石田課長)

- 一番大きな要因は、就学支援金という高校生の授業料無償化に伴うもので、数年前に私立の学校に対しても所得の要件が緩和されて対象が拡大されたため、奨学金の需要が全体的に減少傾向にあるものである。

(原委員)

- 強制執行はどのようなことをしているのか。

(石田課長)

- 支払督促から訴訟に移行して行う最終的なもので、預金や給与の債権の差押えなどである。

▼協議・報告イ 東エリア特別支援学校高等部（新設）の学校概要について
竹原課長より説明

▼協議・報告ウ 東エリア特別支援学校高等部新築工事請負契約の締結について
西尾課長より説明

▼協議・報告エ アイランドシティ地区小学校プール棟新築その他工事請負契約の
締結について
西尾課長より説明

▼協議・報告オ 専門学科を有する市立高校のあり方検討について
大坪課長より説明

9 閉会

教育長閉会を宣告 16時25分